2025.2.

これから子どもたちに吹奏楽を指導する人のための～

# 【心構え】

子どもが楽器を始めるときは誰でも初心者でアマチュアです。ひょっとしたら将来、専門家になる人もいるかもしれませんが、楽器を始めた最初からそういうつもりの子はまずいません。このことを心にとめましょう。大切なのは、音楽が好き、合奏が好き、楽器が好きという子を、もっと多くすることです。

1. 短い時間でも少しでも上達させたい
2. 「また次の練習に来たい」と思ってもらえるか
3. 自分が子どもたちとの音楽の時間を楽しむ

# 「吹奏楽活動は楽器を使って合奏をする活動」

## １ 合奏のために必要な基礎力を高めたい

1. 音楽が好きという気持ち （感受性、想像力、表現力、感動する力など）
2. 協力しようという気持ち （他人への信頼、尊敬、感謝、人類愛など）
3. 音楽的能力 （音感、リズム感、聴力、読譜力、音楽知識など）
4. 楽器を演奏する力 （音色、音量、音形、音程、音域、テクニックなど）
	* これらがすべてそろってこそ良い合奏ができます。
	* 気持ちが土台になってこそ音楽的能力や楽器技術の練習に励むことができます。
	* 能力や技術が高まると、さらに気持ちが高まります。
	* もっと練習に励むことができます。こうしてレベルも上がっていきます。

【①気持ち】

好き•おもしろい楽しい•嬉しい

【②音楽的な能力】

【③楽器演奏技術】

**合奏に必要な基礎力**

## ２ 練習のときは

* 集中すること • よく聴くこと • 比較すること

## ３ 初歩の指導（個々の演奏技術）

* 楽器がまったく演奏できない状況で、合奏に参加したとしても楽しくはないでしょう。

（１） まずは音が出ること

（２） 音階ができること（運指がわかる）

（３） 楽譜がある程度読めること

個人力には必ず差があります。その子にあったレベルのアドバイスをして、現状から少しでも上達、向上することを目指します。

（１） まずは音が出ること

① 楽器について

* + 楽器ケースからの出し方、しまい方
	+ 楽器の組み立て方、戻し方 →楽器ごと（特に木管）に
	+ 楽器ケース、楽器の持ち運び方
	+ 楽器の置き方（楽器ごとに）
	+ 楽器は壊れていないか（音の出る状態か）
	+ 楽器の装備品に異常はないか
	+ 楽器の手入れに必要なものがあるか

【フルート•ピッコロ】

* + - ジョイント部分
		- 反射板の位置
		- タンポ、ねじ、ばね
		- キイフェルト、コルク

【オーボエ】

* + - ジョイント部分（連結キイ／下管とベル•上管と下管）
		- リード
		- タンポ、ねじ、ばね
		- キイフェルト、コルク

【クラリネット】

* + - ジョイント部分（連結キイ／上管と下管）
		- マウスピース、リガチャー
		- リード
		- タンポ、ねじ、ばね
		- キイフェルト、コルク

【サクソフォン】

* + - マウスピース、リガチャー
		- リード
		- ネック、オクターブキイ、ジョイントねじ
		- タンポ、ねじ、ばね
		- キイフェルト、コルク
		- ストラップ

【ファゴット】

* + - ジョイント部分（連結キイ／テナージョイントとダブルジョイント
			* バスジョイントとダブルジョイント•ベルとテナージョイント）
		- ハンドレスト
		- リード
		- ボーカル、ウィスパーキイ
		- タンポ、ねじ、ばね
		- キイフェルト、コルク
		- ストラップ

【金管楽器】

* + - マウスピース
		- すべてのバルブスライド（抜差管）
		- ウォーターキイ
		- ピストン、ロータリー、トロンボーンのスライド

（正しい位置、スムーズな動き、息漏れなし、メカノイズなし）

② 演奏するときの姿勢、構え方

* + 立奏で（足の位置、腰、あご、ひじ、目の位置）
	+ 座奏で（椅子の高さ、方向）
	+ 譜面台の高さ、譜面台までの距離

③ 奏法の基礎

* + 呼吸法【息の出し方】

「管楽器は息で音を出す楽器」

長い短い、強い弱いだけでなく、

柔らかい音、鋭い音、明るい音、暗い音など、すべて意志を持った息の出し方が必要。息のスピードや量や距離感を変えて

「息」は目に見えません。指導者も学習者も。管楽器指導の難しいところです。

上手にイメージを利用して、無意識に呼吸筋群や口腔内の容積などをコントロールさせましょう。

* + 呼吸法【息の吸い方】

たくさん吸えるにこしたことはありません。いろいろな指導を通して、たっぷり吸った実感をもたせましょう。風船などを利用して吸った量を可視化してみるのも効果的です。

* + アンブシュア【演奏のための適正な口の形】

唇の形、あごの形、舌の位置、マウスピースの位置などを正しく。

## ＜奏法チェック＞

### 【フルート】

* アパチュア（唇の真ん中に小さな穴を作る）手鏡で確認
* 下唇とアゴの皮膚の境目に歌口の手前のエッジがくるように
* 下唇が歌口を5分の2くらいふさぐ
* 下あごを前に張る
* 歌口のエッジに息を当てる
* きれいな三角の息跡ができる

→頭部管のみでＡ♭音（Ａ音）を出す

### 【オーボエ】

* 上下の唇をしっかり巻く
* リードでＣ音を出す
* リードでＢ音、Ｂ♭音、Ａ音を出す
* クロウ

### クラリネット

* + 「エ」の口で「ウ」を発音するように口角を少し寄せる
	+ ほおの内側の肉を奥歯に密着させる
	+ 深めに加えて上の歯にしっかり固定（キャが出たら少し浅目に）
	+ あごを平らにのばす（張る）
	+ マウスピースとたるでＦ＃音を出す
	+ 唇の締めすぎ、ゆるめすぎに注意する

### 【ファゴット】

* + 「も」の口
	+ リードとボーカルでＣ＃音を出す
	+ リードとボーカルでＣ音、Ｄ音を出す
	+ クロウ

### 【アルト•サクソフォン】

* + 「エ」の口で「ウ」を発音するように口角を少し寄せる
	+ ほおの内側の肉を奥歯に密着させる
	+ 深めに加えて上の歯にしっかり固定（キャが出たら少し浅目に）
	+ あごを平らにのばす（張る）
	+ マウスピースはネックのコルクの４分の３くらいの位置まで差し込む（微調整する）
	+ マウスピースとネックでＡ♭音

### 【テナー•サクソフォン】

* + アルト•サクソフォンと同様
	+ マウスピースとネックでＥ音

### 【バリトン•サクソフォン】

* + アルト•サクソフォンと同様
	+ マウスピースとネックでＥ♭音

（楽器メーカーによってネックの長さが違うので一概に言えません）

### 【金管楽器】

* + 下あごを少し前に出して、上下の歯をそろえる
	+ 上下の歯を少しあける
	+ 唇を自然に閉じる（ただし歯は閉じない）
	+ 口角を軽く引く
	+ 「プー」と息で唇を押し破って空気をはき出す
	+ 上下の唇のすきま（アパチュア＝息の通り道）はリラックス
	+ 自然とバズイング（唇が振動する）が起きるように
	+ マウスピースは基本的に左右対称の中央にあてる
	+ マウスピースのリムの内側のエッジが上唇の上の皮膚にかかるようにする

（上唇にかからないようにあてる）

* + マウスピースでＢ♭音（またはＦ音）など、一つの音をまっすぐのばす
	+ その音から上下にサイレンのように音を動かしてみる

### 【すべての管楽器に共通で】

* + 音を出す（「発音」という）直前の舌の位置を確認する。
	+ 金管楽器とフルートは、基本は上歯の裏側（音域や発音の種類などによって、上あごの方だったり、歯よりも前に出たりすることがあります）に、リード楽器は、基本はリードに軽く触れている位置にセットして、息の圧力をある程度かけてから、舌を離す。

（２） 音階ができること（運指がわかる）

音楽的能力と楽器技術を同時に上達させる基礎練習メニュー。それは「音階練習」です。

美しい音階が楽器で演奏できることを目指して練習します。音色、音程、音量等に十分気をつけてロングトーンします。

* 長音階（B-DurやＦ-Durなど）いずれは、全調やりたいが初心者はまず一つで十分
* 半音階

① 長音階（ドレミファソラシド）

* + - 金管は「ドレミファソ」「ドレミ」など音域に無理がないようにできる範囲で
		- クラリネットも「ドレミファソラ」まで。または「ソラしドレミファ＃ソ」
		- ホルンはＦ-Durで
		- チューバでなどで下の音が出にくい場合は、「ドシラソ～」や「ソファミレド」など
		- 楽器ごとや生徒ごとに出る音から音域を広げつつ、音階を学習する
		- 「運指表」は必ず渡す。興味が湧いている子は自分でどんどん覚えていきます。

② 半音階

* + - 一つまたは２～３の長音階がマスターできたら、半音階をやりましょう。
		- ロングトーンとして、すべての運指を覚えつつ、すべての音を出す練習は重要です
		- ある程度速度を上げて、半音階（始まりや終わりの音を変えて）ができるようになることも重要です。

ロングトーン以外のときも、音色、音程)、音量等に十分気をつけて。

音量を変えて行うと効果的です。曲を合奏するときには強弱記号が必ずあります。基礎練習で音量の変化についてきちんと学習します。

（３） 楽譜がある程度読めること

* ちゃんとした音が出て音階が完全に演奏できるまで、合奏に参加できないとしたら、それは楽しくありません。一つの音しか出せない子も合奏には参加できます。ましてや「ドレミ」や「ドレミファソ」が吹けるならば、すぐ合奏しましょう。
	+ 合奏のための楽譜を配って、楽譜の読み方を教えながら、合奏する楽しさを教える
	+ 「もっと別の曲もやってみたい」「もっといろいろな音が出るようになりたい」と思うようにすることが大切